

下見の さとみち

国立大学を擁する下見地区には、
おおきな里山が5座あります。

山が“さとやま”として機能するには、
遊歩道が備わっていることが必要です。

みなさんご存じのように、使われなくなった
山道は数年経てば消失します。

ホームページは
「山道の維持」＝「道を使ってもらう」
を目的に立ち上げました。

連絡先：**5za.6ky@gmail.com**
(下見やまみちの会:SYG)

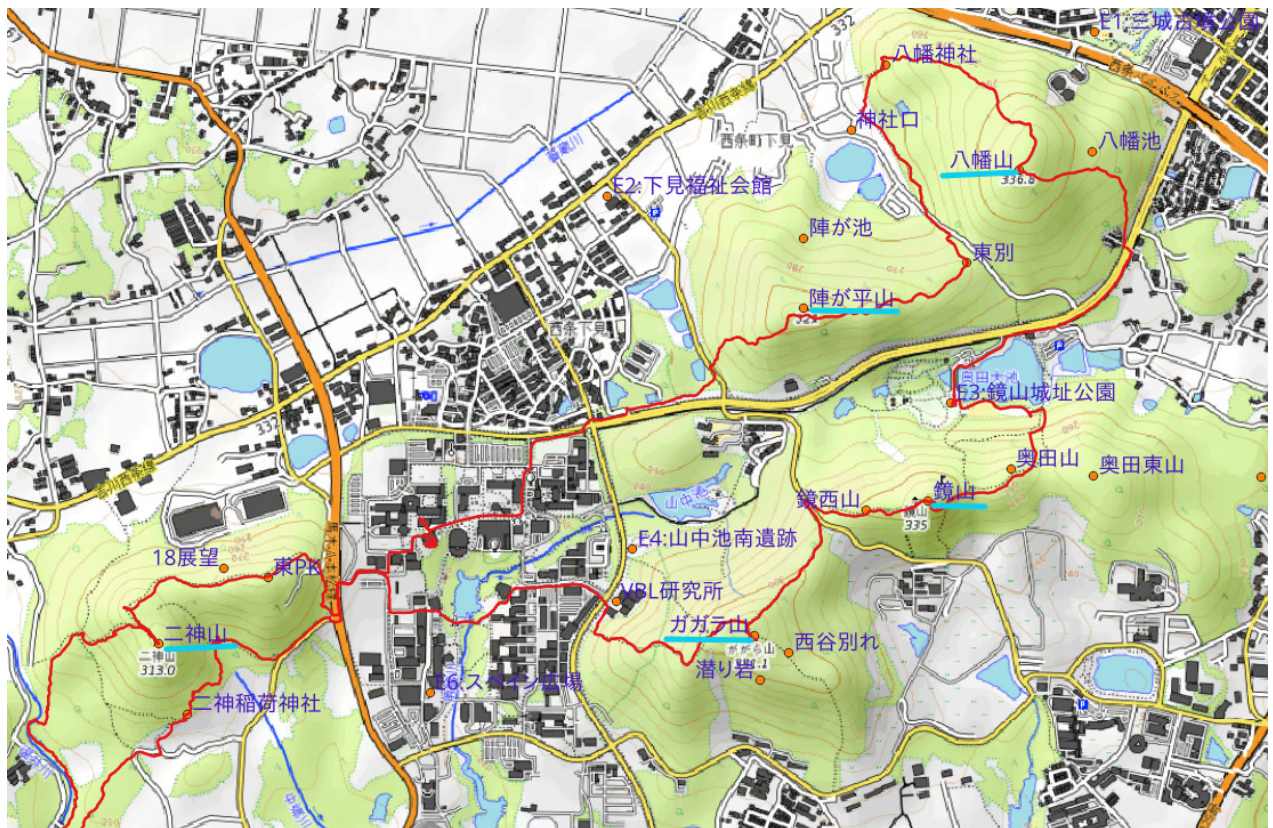


ホームページ URL
<https://upto.0am.jp>

も く じ

1. 下見のさとやま（五座六抛）	1
2. 五座六抛の紹介	2
[1] 八幡山 332 m	2
[2] 陣が平山 321 m	4
[3] 鏡山 335 m	8
[4] ガガラ山 331 m	11
[5] 二神山 313 m	14
[6] 広島大学	18
3. あとがき	19



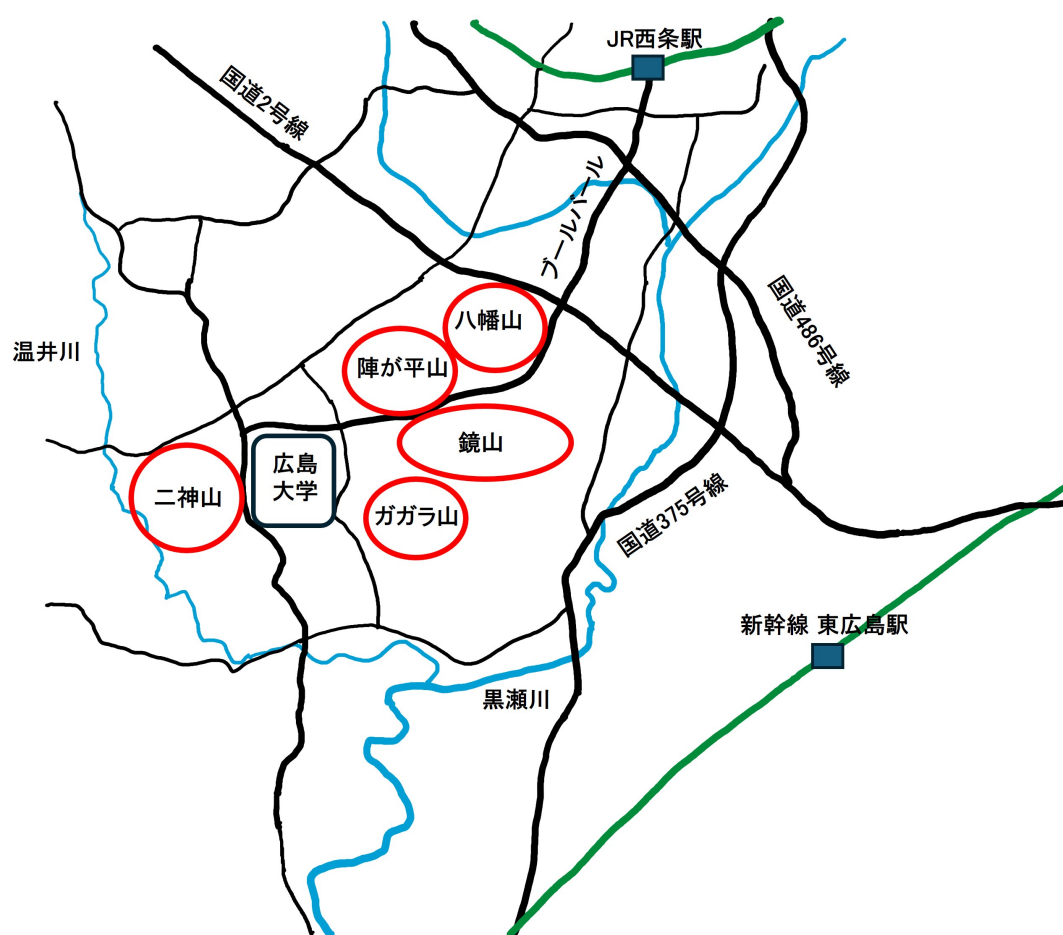
【さとやま全図】

“さとやま”は、いつも見慣れている裏山です。

さとやま全図には、五座六抛のトレッキングルートの一例が赤線で示されています。このルート一巡の所要時間は昼食（30分）を挟んで6時間です。詳細はホームページ（表紙にURLを示しています）を参照なさってください。

1. 下見のさとやま（五座六抛）

五座六抛は東広島市の中心部に位置しており、主要交通路と黒瀬川に囲まれているのが分かります。峯を連ねた山々の中には地区外にはみ出たものもありますが、便宜上同列に並べています。



2 五座六抛の紹介

以下に五座各々について、主な里道と散策コースの一例をご案内します。
各地図の赤い線が主な里道で黒い線は補助的な里道です。また黒丸は主な登山口です。

[1] 八幡山 332m

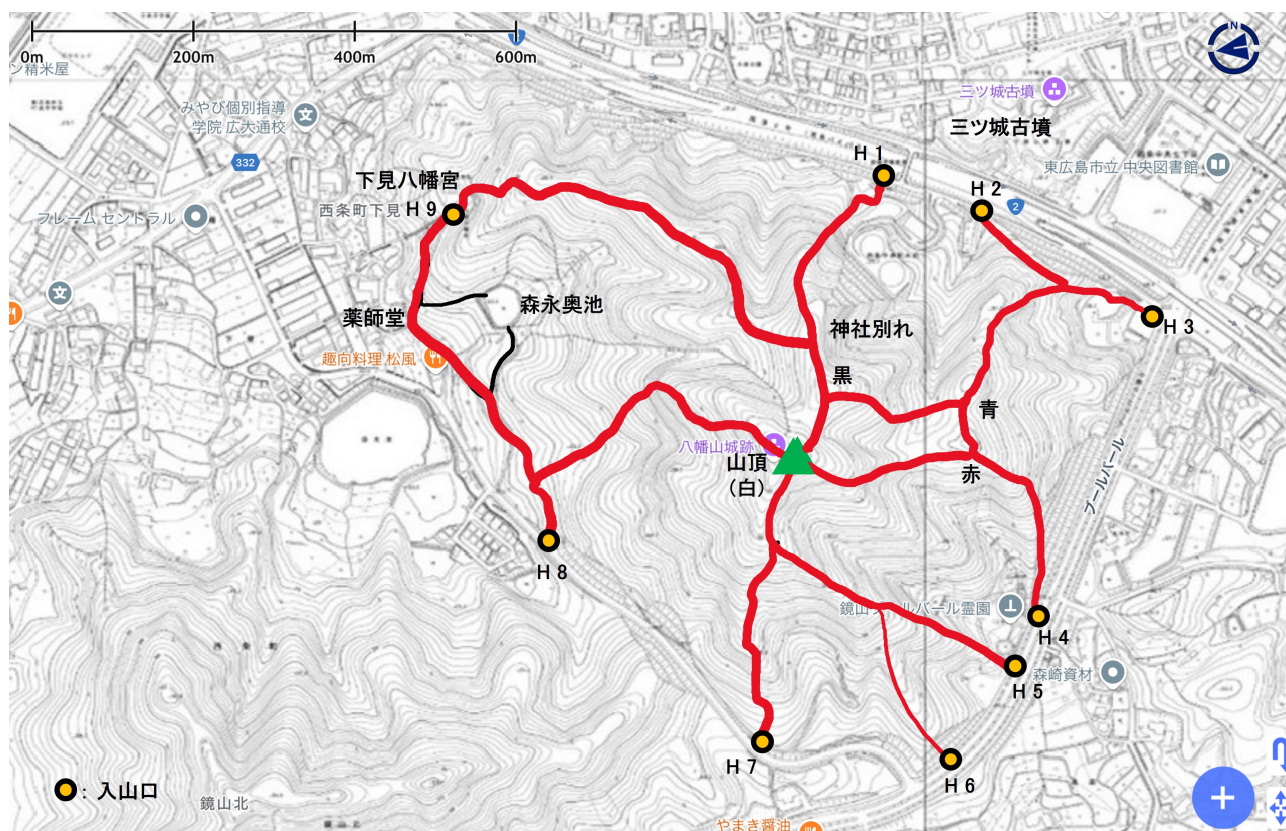
下見里山の最北端に位置しており、山裾には県内最大の三ッ城古墳（五世紀）があります。この公園が八幡山への入口です。



例年 10 月には「光りの宴」が開かれて芸能が奉納されています。



頂上には2基の祠があります。
 碑文からは、雨乞い祈願であろ
 うといわれています。



[八幡山のさとみち]

八幡山の里道（赤線と黒線）はかなり複雑です。道の端点 H1～H9 は登山口です。推奨する散策コースは三つ城古墳公園を発着とするものです。試みとして山頂を目指したいのであれば、公園から最短距離にある登山口 H1 から入山し、H1 →神社別れ→黒→白（山頂）へ至り、帰りは同じ道を戻ります。所要時間は 40 分です。もう少し山を極めたい方には、4 つの小山群を巡るルートを推奨します。H1 →神社別れ→黒→青→赤→白（山頂）→H8 付近へ下山→薬師堂→八幡神社→神社別れ（登り返し）H1→公園です。QR コードの説明ではさらに歩行を進め、神社別れ→黒→青→H2→公園、としています。所要時間は約 2 時間です。その他、地図を基にしてご自由に山歩道を創作してください。所要時間の目安としては、登山口の各端点から山を越して別の端点まで約 1 時間です。



【2】陣が平山 321m

陣が平山への入口は下見福社会館（三ツ城地域センター）です。



陣が平山の山麓には、昔から下見村集落が広がっていました。下見福祉会館では、正月の互例会、夏祭り、文化祭などの催しが開催され、町の中心となっています。



[下見福祉会館での夏祭りと文化祭]

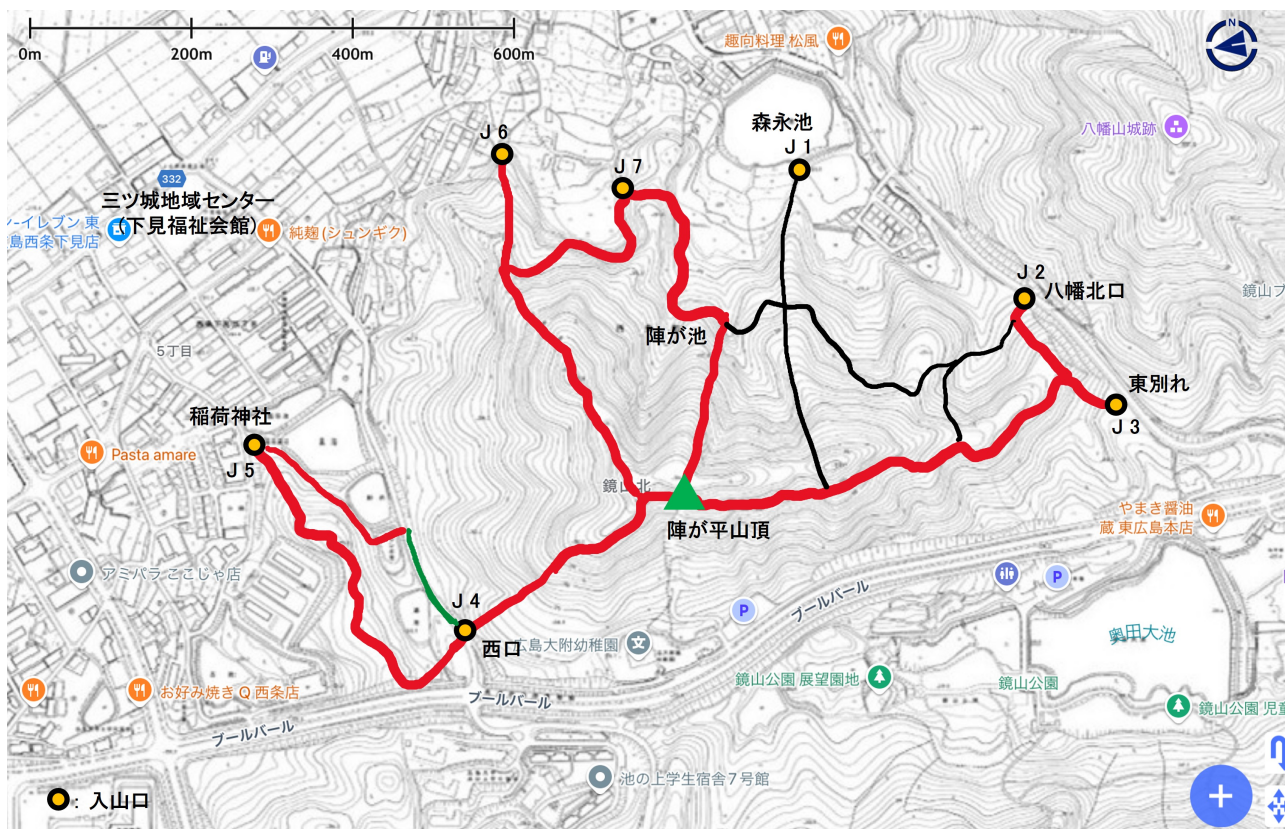


会館近くにあるため池群、瓢箪池、長池、砂池、カシンボ池、湯池の内、瓢箪池は、近々（2028年）公園に改修されるそうです。付近には多様な動植物が生息・生育していることが報告されています（広島大学総合博物館）。



麓にある幼稚園が建設したと思われる小屋です。山頂にあります。





[陣が平山のさとみち]

山は東西に長く横たわっており、八幡山の西に隣接し、鏡山とブルーバールを挟んで対峙しています。取り敢えず山頂へ登ってみるのが目的であれば、一般道を使って J4（西登山口）へ行き、そこから山頂を往復します。約 30 分です。QR コードのモデルコースは下見福社会館を発着とするもので、所要時間は約 2 時間です。稲荷神社裏の道を通り、西登山口から入山し、幼稚園の頂上小屋を経て東進し、東端の八陣通あたりでやまを下って山裾を西方へ戻ってきます。

ショートカットをする場合には、山頂小屋から北方へ降り、陣が池で前記のルートに合流します。所要時間約 1 時間です。なお、15 歳以下の子供は父兄同伴で行動して下さい。山頂小屋付近から附属幼稚園方向へ下る案内の札がありますが、**附属幼稚園で行き止まり**ですから、下山目的には使えません。間違っ入り込まないようにしてください。



[3] 鏡山 335 m

鏡山への入口は中央休憩所です。



国指定の城址公園で、八幡山、陣が平山とブールバールを挟んで対峙しています。何時もウォーキング愛好者など多くの人々が集っており、特に桜の季節には花見客での賑わっています。



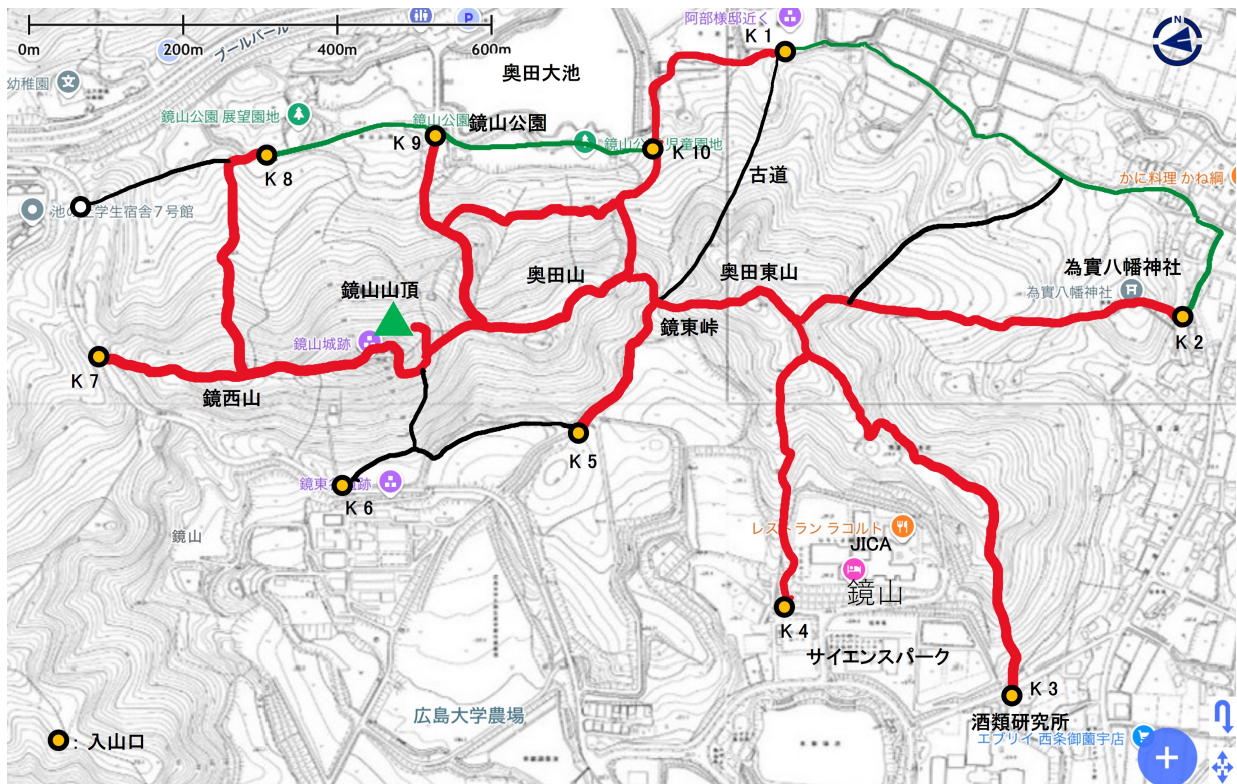
公園内の奥田大池では鯉や水鳥を見ることが出来ます。



山頂付近にはこのような案内があります。



山頂からの景色は抜群です。



[鏡山のさとみち]

360度の展望が開け、5座全ての頂上を望むことができます。公園内に掲示されている登山コースは、K10（Aコース）またはK9（Bコース）から頂上を往復するもので、所要時間もいずれも30分程度です。ここでは、正面の休憩所を発着して鏡山を大きく周回できるコースを推奨します。奥田大池の東堤の中程から東方へ田んぼ道を50mほど進んだ所K1が入山口です。ここから南方へ、昔には多用されたと思われる峠越えの古道があります。鏡東峠の所で西方へ少し登ってAコースへ合流します。ここから西進して、頂上、鏡西山へ。鏡西山から下山し、公園西のK8地点を経由して中央休憩所へ戻ります。所要時間は1時間20分程度です。ホームページには、さらに広い範囲を巡回するコースが示されていますのでご参照下さい。



[4] ガガラ山 331m

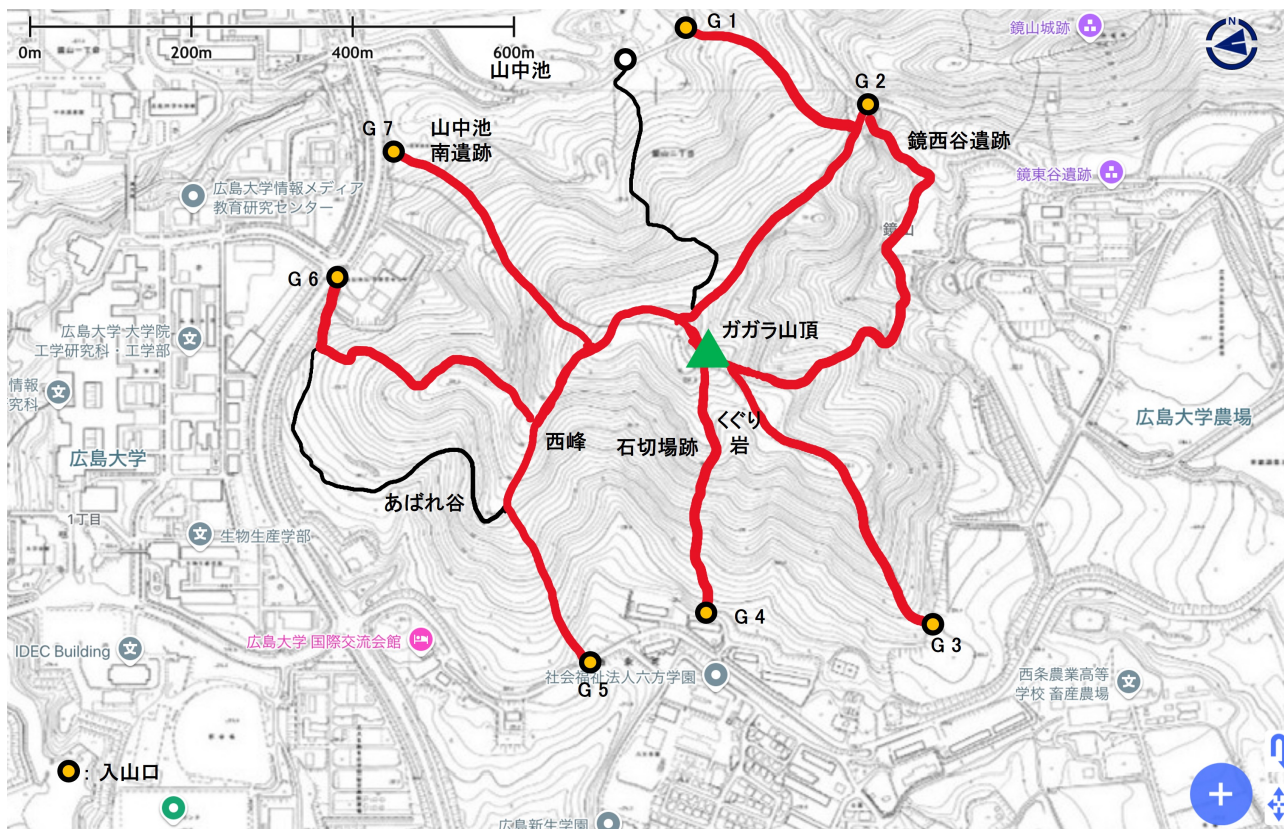
ガガラ山への入口である山中池南遺跡はよく整備されており、説明を読むと古代のことが分かります。



この岩を潜るには勇気がいりますが、思ったより簡単に潜り抜けられます。但し単独で行動される場合は十分に注意し、無理だと感じたら中止してください。



古代に加工されたと思われる岩も見かけます。



[ガガラ山のさとみち]

山中池南遺跡 G7 を発着します。G7 から頂上までは往復 30 分です。ここでは、ガガラ山の特徴を満喫するやや危なっかしいコースを説明します。G7 から G6 へ進み、黒道へ入ります。道が湾曲したあたりに深く削られた数本の“暴れ谷”があります。このあたりの路は不確定ですが、要所には赤いリボンを付けてあります。赤道に沿って下り G5 へ。職員宿舎裏 G4 から暫く登ると“巨石庭”。頂上直下のくぐり岩を見て、東方へ下り鏡西谷遺跡へ。遺跡見学しつつ尾根まで登る。G1 へ下り山中池付近を經由して出発点 G7 へ戻ります。所要時間は約 2 時間です。ホームページには幾つか別のコース説明がありますのでご参照下さい。



[5] 二神山 313m

二神山へのアクセス拠点は
芝生公園です。



広島大学の西、福山通運の南に位置し、見晴らし・ツツジ・せせらぎをセールスポイント
にしています。



西ピークからはこのように工業団地を見ることが出来ます。



温井川沿いにこのような冒険心をそそられる峡谷があります。ここに行かれる場合は次のQRコードの記事を参考に、十分な準備をしてお出かけください。

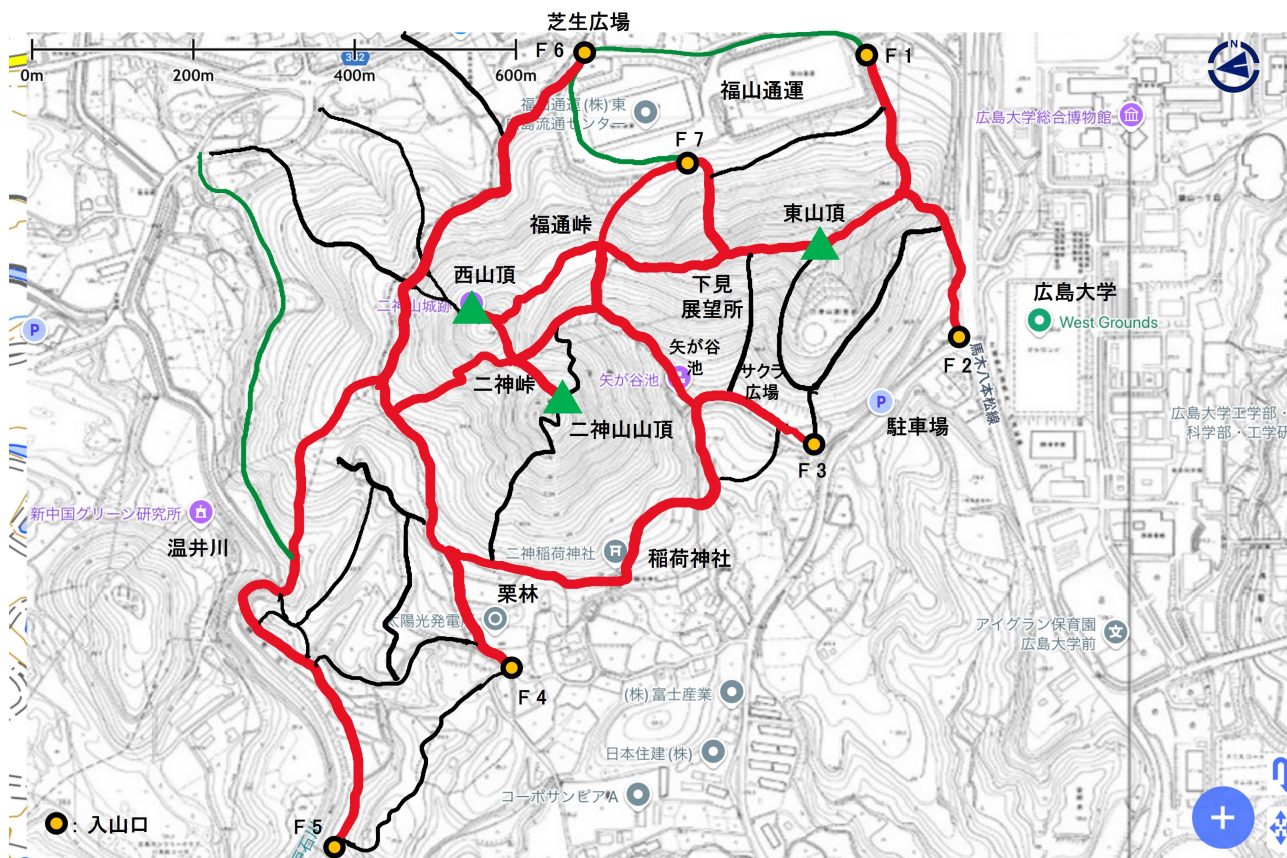


二神山山頂から東方が開けているのでご来光を拝むことができます。



展望所は18尾根の最上部になります。2018年の集中豪雨によって、この尾根の両側が崩壊しました。この状況は直下20mの所で見学できます。この時の土砂は福通駐車場を直撃し、大型車両を台めて数十台の車が被害を受けました。





[二神山のさとみち]

この山の里道は、非常に良く整備されています。随所に案内板やベンチが設置され、正に森林公園そのものです。そのような公園同様の里山においても自然災害は発生します。

ここでは2018年の豪雨災害による斜面崩壊現場をコースに取り入れています。発着点の芝生広場から福通の社屋を挟んだ向かい側の登山口F7から入山します。道は南北の尾根上にありますが、尾根の両側が崩壊現場です。道の頂上は東西方向の尾根で下見展望所となっています。東方へ東ピークまで行き、南方へ下山F3、桜広場→矢が谷池→稲荷神社→栗林→二神山頂上→二神峠→西ピーク→周回道→F6→芝生広場です。このコースでは登り2か所（F7→下見展望所、栗林→頂上）と下り2か所（東ピーク→F3, 西ピーク→周回道）は野趣あふれる山道です。ホームページにはいくつかのコースモデルを載せていますので参照してください。



[6] 広島大学

キャンパスへのアクセス拠点はスペイン広場です。



構内を含めて、いろいろの施設が一般市民に開放されています。そもそも大学の内外を隔てる塀の類は一切ありません。図書館も自由に立ち入って読書できますし、書籍の借用も可能です。小川（角脇川）が流れ、自然豊かな学内にはウオーキングコースも設定されています。学内の散策につきましては、広島大学のホームページ「建物配置図」（HPの末尾にあります）をご参照ください。

[ゆかたまつり]



3 あとがき

里山五座六抛の特色を一言でいいますと、

八幡山 「県内最大の三つ城古墳」

陣が平山「山麓は下見村の中心地」

鏡山 「国指定の城址公園」

ガガラ山「遺跡見学とくぐり岩」

二神山 「見晴らし、ツツジ、せせらぎ」

広島大学「開かれた大学 Town and Gown」

となります。

山城に関しまして、二神山城は、鎌倉時代(1200年頃)築されました。鏡山城は大内氏配下でありましたが、山陰の尼子氏に敗れました(1523年)。この時尼子氏側が陣を張ったのが“陣が平山”だそうです。鏡山城は、曾場が城から槌山城へと場所を替えたそうです。

【こどもみこし（酒祭り）】

ひと昔前には、人々は生活全般（衣・食・住）を何らかの形で、野山に依存して暮らしていました。生活様式の近代化にともなって、これらは忘却の彼方へ追いやられさとやま自体の存在価値も消え去ろうとしているように思えます。一方、「百名山登山」、「里山保育・里山留学・里山暮らし・田舎移住・・・」等々、野山や里山での諸活動への回帰や憧れは、本人は気付いていないかも知れませんが、誰もが心の隅に宿しているものと思います。幸いにして下見在



住の皆様の場合には、「さとやま」から「登山」までをほんの1、2時間程度で体験することができます。たまには五座六抛と戯れて、日ごろの疲れをいやすとともに、明日への鋭気をやしなってみてはどうでしょうか。

さとやまと言えども山は山。山の事故は自己責任と言われています。アクシデントに備えて、山行はなるべくなら複数人で行くようにしましょう。

2025年7月21日 © SYG

下見さとやま賛歌

作詞：下見やまみちの会 作曲：武山信治

曲は「広島高師の山男」（「坊がづる賛歌」の下歌）と同一です。 ハーモニカ演奏

1. (下見 5 座 6 扨)

はぐく 命育 む水集め ばんぞう 田畑潤す番蔵川
かわも 川面に映える 5 座 6 扨 とわ 永久の大地に横たわる



2. (春、鏡山公園)

おさなご 下見の里に花が咲き 幼児遊ぶ遊園地
む 水鳥<群れて餌を は 食み 北の空へ飛び立たん

3. (初夏、広大ゆかたまつり)

山の緑が映える頃 ゆかた姿の学生ら
かた お国なまりで夢語る 世界の融和ここにあり

4. (秋、酒まつり・光の宴)

びしゅなべ 実りの里の酒祭り 美酒 鍋囲みいつまでも
うたげしょう 光の宴 笙 ね の音や えいき 明日への鋭気身にたぎる

5. (冬、里山めぐり)

枯れ葉踏み分け山道を 八幡山と陣が平
や 鏡山からガガラ山 学び舎通り二神へ

6. (大学キャンパス)

Town と Gown 知恵を出し 学びと生活共にして
世界の国が結びつき 平和な暮らし広げよう